



第9章 地域連携研究

村井, 良介 ; 添田, 仁 ; 坂江, 渉 ; 古市, 晃 ; 木村, 修二 ; 三村, 昌司 ;
板垣, 貴志 ; 河島, 真

(Citation)

歴史文化に基礎をおいた地域社会形成のための自治体等との連携事業, 10(平成23年度事業報告書):47-50

(Issue Date)

2012-03-31

(Resource Type)

report part

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/81003866>



世史専攻の山本康司君に文書の整理に当たってもらってきた。2011年度の成果として、社会科学図書館所蔵の文献資料群のうち「河内国若江郡西郷村文書」「河内国茨田郡点野村文書」の整理および目録作成を完了している。これらの新たな目録データも、昨年度同様、同館HP上で公開されているデータベース

(<http://www.lib.kobe-u.ac.jp/kichosyo/monjo/>) に近々追加アップされ公開される。データベースには、山本君が作成にあたった解題も併せて掲載され、利用者への便宜が図られる。

なお今後も連携して、社会科学図書館所蔵の文献資料群を中心に整理作業を継続し、併せて公開も漸次進めていくことになっている。

(文責・木村修二)

第9章 地域連携研究

地域連携センター年報 『LINK【地域・大学・文化】』

2011年8月31日付で第3号を発行した。特集「対談 吉田晶+大山喬平 歴史学は地域とどう向き合うか」を編んだほか、史料紹介と「LINKを読む」を新設し、また時評・書評・展示評を5本、フィールドレポートを4本、活動報告5本を掲載した。内容は下記のとおり。

■特集「対談 吉田晶+大山喬平」

編集委員会「特集にあたって」

- ・古市晃「吉田晶氏と戦後民主主義・戦後歴史学」
- ・村井良介「大山喬平氏の研究と地域」
- ・対談 吉田晶+大山喬平 歴史学は地域とどう向き合うか
- ・吉田晶「対談を終えて」
- ・大山喬平「対談を終えて」
- ・奥村弘「編集委員会より」

■史料紹介

- ・木村修二「神戸大学附属図書館所蔵近世初期篠原村・若林家関係文書」

■フィールドレポート

- ・大村敬通「小野市立好古館の新たな取り組み」
- ・渡辺伸行「文化財を支える人材育成—神戸市埋蔵文化財センターのボランティア育成から—」

- ・石川道子「伊丹酒造組合との連携事業史料による江戸時代の酒の復刻」
- ・深見貴成・古市晃「第二回地域史惣寄合について」

■LINKを読む

- ・平井晶子「LINKを読む」
- ・三村昌司「歴史文化の可能性と課題—『LINK』2号特集「“地域の再生”と歴史文化」を読む」

■時評・書評・展示評

- ・大国正美「北野村古文書さとがえり展について」
- ・山崎善弘「百耕資料館の常設展を観て」
- ・岩城卓二「和泉市史編さん委員会編『松尾谷の歴史と松尾寺』」
- ・高野宏康「板垣貴志・川内淳史編『阪神・淡路大震災像の形成と受容震災資料の可能性』」
- ・吉原大志「水内俊雄・加藤政洋・大城直樹著『モダン都市の系譜』」

■活動報告

- ・地域連携センター活動報告
- ・人文学研究科古文書室収蔵文書一覧
- ・地主喬先生のご逝去を悼む

また第4号に向け、2011年11月17日、2012年1月30日、2月21日に、主に黒田俊雄氏の論考の検討を中心として地域史に関する勉強会をおこなうなど、第4号刊行の準備を進めている。

(文責・村井良介)

三菱財団助成・奥村弘・添田仁 「鉾山地域社会史確立のための基礎的研究 —生野銀山石川家の分析を中心に— (2010-2012年度)」

本研究では、地元の住民・自治体および三菱関係者との地域史研究のなかで発見された、(I)生野鉾山町と周辺農村の境界に位置する巨大な地主兼商家である石川家の1万点以上の新出史料群と、(II)同家出身で生野鉾山史研究の第一人者であった石川準吉(1908-1989)の新出史料群とを整理・分析し、生野鉾山史を再検討する。とくに、鉾山・鉾山町の内部にとどまらず、より広域の地域社会との社会的、権力的な関係のなかで成り立つ鉾山ならびに鉾山周辺地域の歴史的な分析を進め、鉾山地域社会史研究の基盤を築くことを目的とする。

具体的には、(I) (II) の史料目録を作成して研究環境を整え、それぞれの史料群の全体像を把握するために史料学的研究をおこない、同史料群の歴史的意義を明らかにする。最終的には、これまでの鉾山史研究の成果を豊富化し、鉾山地域社会史確立のための基礎的研究を行うことを課題とする。

(I) については、今年度は、9月22日に7名で行った整理作業に加えて、現地在住の山崎實氏・加門洋子氏に文書の撮影を依頼し、井上舞がその撮影作業の統括、データの整理を行った。撮影期間は下記の通りである。50日間の撮影で、日記・土地関連文書・鉾山関連文書を中心に約300点の撮影を行った。作業開始当初は、撮影担当者が初心者であることもあって、撮影ミスも多く、また、時間もかかっていたが、都度、撮影方法の確認を行ったことによって、現在はかなりスムーズに撮影が行われている。撮影済みのデータについては、整理番号を付し、添田研究室に保管中である。今後も同様の作業を続けていく予定である。

<撮影期間>

1 ターム

平成23年8月4日～8月26日

2 ターム

平成23年9月8日～10月6日

3 ターム

平成23年10月20日～11月11日

4 ターム

平成24年1月12日～2月3日

5 ターム

平成24年2月16日～3月9日

※各ターム内で山崎・加門は10日間勤務。井上は基本的に4日間勤務。

(II) については、「石川準吉関係資料整理」の項目を参照のこと。(文責・添田仁)

平成22年～24年度 科学研究費補助金・基盤研究(C)「播磨国風土記の現地調査研究を踏まえた古代地域社会像の提示と方法論の構築」(研究代表・坂江渉)

本研究は、『播磨国風土記』の史料校訂を踏まえた徹底的な現地調査をおこなうことにより、古代地域社会像の実態解明とその方法論の構築をめざしている。平成19～21年度の科学研究費補助金・基盤研究(C)「播磨国風土記を通してみる

古代地域社会の復元的研究」を踏まえており、今回のチーム編成は、坂江渉を研究代表者とし、古市晃(神戸大学准教授)、高橋明裕(立命館大学非常勤講師)を分担研究者としている。

今年度の主な研究活動は以下の通りで、また研究代表者、分担研究者が各地で研究成果を公表することができた。

■ 2011年8月19日～20日

□ 応安4年(1371)『祇園社家記録』の祇園執行頭詮の旅日記の行程を辿り、古代の摂津～播磨間の古道調査を実施(三田市まちづくり部生涯学習課市史編さん担当学芸員の印藤昭一氏の指導のもと)。

□ 宝塚～生瀬～蓬莱峡～船坂～湯山～湯泉神社～山口庄～畑庄～道場河原～(松山城を右にみる)～家原～牛頭天王社～かうつはた～アミノ山～(播磨国境)人カミ松～(播磨国)ヨコフ～東条ノ八日市

□ 報告会:坂江渉「科研調査の進捗度合いについて」/印藤昭一氏「摂津国宍粟郡の羽束郷めぐって～宍粟温泉と羽束の月～」/高橋明裕氏「古市晃氏の王宮の存在形態論の検討」/

■ 2012年2月7日

□ 神戸市神出窯跡群Ⅲ・神出鴨谷2号窯出土のヘラ書き文字資料のある須恵器甕調査報告(兵庫県立考古資料館/古市晃・坂江渉)

□ 2012年2月1日、サンケイ新聞の加古川駐在の出雲記者より、ヘラ書きの文字資料についての調査コメントが欲しいとの依頼が坂江宛に入る(和田萃氏の推薦)。それを受け共同研究者の古市晃と坂江渉が相談し、現在、兵庫県考古博物館の「ひょうごの遺跡 vol.4」企画展にて展示中の同資料の調査を両名でおこなうことを決定。同館の社会教育推進専門員の岡崎正雄氏に電話して、調査訪問の件を打診。

□ 調査所見については、本科研事業報告書を参照のこと。

■ 2012年2月18日～19日

□ 佐用町教育委員会教育課企画総務室室長補佐の藤木透氏の案内により、旧讃容郡内の播磨国風土記故地を巡見調査。

□ 速湍里～邑宝里～柏原里釜戸の比定地～東徳久の天一神社～早瀬廃寺～櫛田神社。

□ 報告会/高橋明裕氏「『播磨国風土記』高岡里条からみる神崎郡」/坂江渉「『播磨国風土

記』にみえる国占め神話について」／古市晃氏
「倭王権成立論の現状と課題」

□森田喜久男氏（島根県立古代出雲歴史博物館
専門研究員）と中林隆之氏（新潟大学人文学部
准教授）のコメントを得た。

（文責・坂江渉）

**平成23年度科学研究費補助金・基盤研究 (C)
古市晃「5・6世紀における王宮の存在形態と変
遷過程の研究」の実施**

平成23年度より3年間の予定で標記補助金の
交付を受け（課題番号 23520812）、現地調査、研
究報告、論文発表などの活動を行った。

（文責・古市晃）

**平成23年度科学研究費補助金・若手研究
(B) 村井良介「戦国期の大名分国おける
「戦国領主」の研究」**

本研究は昨年度より3か年の期間で採択を受け
ている。戦国期の毛利・後北条・武田・上杉・大
友・島津の各大名分国について、「戦国領主」の
「家中」と「領」関係史料の収集とデータベース
の作成おこない、その成果に基づいて、それらの
具体的様相を明らかにすることを通じて、戦国期
大名分国の権力構造の解明を目指すものである。
今年度は大友分国と武田分国の研究をおこなっ
た。また、昨年度の山口県文書館、および島根県
立図書館所蔵史料の調査成果を整理した。

（文責・村井良介）

**平成23年度科学研究費補助金・研究成果公開促
進費・村井良介『戦国大名権力構造の研究』**

研究成果公開促進費の助成を受け、2012年2
月に『戦国大名権力構造の研究』を思文閣出版よ
り刊行した。

（文責・村井良介）

**平成23年度科学研究費補助金・基盤研究 (C)
「前近代日本における歴史的景観形成について
の災害文化論的アプローチ」（研究代表・木村
修二）**

研究期間5年の内3年目となる本年度は、具体

的な調査エリアとして兵庫県丹波市を中心に調査
フィールドを設定した。テーマは昨年度までに引
き続いてさまざまな灌漑水利施設とそれに関連す
る文献資料についての現地調査をおこなうととも
に、本研究のもう一つの重要なテーマである災害
文化に関わる資料、とりわけ石碑などのモニュメ
ントなどを中心とした調査研究も併せて進めた。

本年度中に実施した主な出張調査は以下の通り
である。

- ① 2011年8月8日：兵庫県丹波市金屋・文献資
料および地区内歴史遺産調査
- ② 2011年8月11～13日：兵庫県丹波市中竹田
・文献資料調査
- ③ 2011年8月18～21日：兵庫県豊岡市・文献
資料および水害記念碑調査
- ④ 2011年8月30～31日：兵庫県丹波市青垣町
・文献資料および災害遺構等調査
- ⑤ 2011年9月27日：兵庫県丹波市山南町・文献
資料および災害遺構等調査
- ⑥ 2011年10月8～10日：兵庫県丹波市氷上町、同
市山南町・文献資料および災害遺構等調査
- ⑦ 2011年12月3～4日：兵庫県丹波市山南町、
同市市島町・文献資料調査
- ⑧ 2012年1月22～3日：兵庫県洲本市、同県南
あわじ市・文献資料および災害記念碑等調査

また、2011年12月29～30日には、本科研へ
の協力者を交えた第3回目の研究会を開催（於神
戸大学）し、研究代表者の木村は「近世領主の災
害見分と対応－史料紹介をかねて－」、研究分担
者の松下正和が「今年度の活動成果について」、
研究協力者の森元純一氏が「近世における岡山県
域の治水～村の思想・思考をめぐって」、河野未
央氏が「災害復興と新田経営～尼崎沿海部・中浜
新田の事例から～」、中岡宏美氏が「吹田市域に
おける災害とその関連遺構について」とそれぞれ
題して報告を行った。

なお今年度末には中間成果報告書を発行する予
定である。

（文責・木村修二）

**平成23年度科学研究費補助金・若手研究 (B)
添田仁「近世・近代移行期における開港場行
政形成過程の研究」（2009-2010年度）**

かつて、近世～近代移行期の日本をめぐる国際関
係の変化は、＜近世・近代の断絶＞の一局面であっ

た。すなわち、貿易・交通の両側面において国家的規制の強さがクローズアップされる「鎖国」から、自由な商売・移動が保障された「開国」へという、維新変革と表裏一体をなす転換点として捉えられたきたといえる。しかし、実際には、近世段階で培われた人材・知識・ノウハウを引き継ぐことなしに、近代以降の国際関係が成立し得えたとは考えにくい。

本研究では、安政の五カ国条約で開かれた開港場（横浜・箱館・長崎・新潟・神戸）で活躍した行政の実務担当者に焦点をあて、開港場における行政、さらには近代以降の国際関係の構造とメカニズムの特質について、近世以来の国際交流史の到達点の上に解明するための基礎的な情報を収集することを目的としている。

東日本大震災の影響を受けて、2011年度まで延長して使用することとなった。（文責・添田仁）

**平成23年度科学研究費補助金・若手研究
(B) 三村昌司「近代日本形成期における「議論」の歴史的研究」**

本研究は、幕末維新期から明治前期における議事機関（議会やそれに類するもの）における「議論のありかた」について、歴史的に検討することを目指すものである。

当該期の議会・議事機関についてのこれまでの歴史研究は、制度史的なものが多く、本研究がめざすような「議論のあり方」が研究の対象になることはほとんどなかった。

しかし、それまでの日本になかった近代的な議会システムを導入するにあたっては、当然様々な困難や齟齬が生じたはずである。そこで、本研究では日本で最初の議事機関である公議所の分析を嚆矢として議会システムの具体的な在り様を検討することで先の課題を明らかにする。そのうえで、近代日本における議会政治のあり方を、歴史的に検討しなおすことをめざしていくものである。

今年度は、2年間の計画の最終年度として、昨年調査した栃木県立公文書館所蔵の秋元家文書・三田家文書分析、また、昨年度に引き続き国立国会図書館憲政資料室所蔵の大久保一翁文書・三条実美文書などの調査も行った。その成果として、『三田市史』通史編Ⅰ 考古・古代・中世・近世

（2011年7月）、及び『三田市史』通史編Ⅱ 近現代（2012年3月）における公議人・公議所の箇所を執筆した。（文責・三村昌司）

**平成23年度科学研究費補助金・若手研究
(B) 板垣貴志「家畜預託慣行の史的研究」**

今年度より2年間、科学研究費補助金（若手研究 B）が採択され、「家畜預託慣行の史的研究」（代表者：板垣貴志）というテーマで調査・研究を開始した。

主に島根県立図書館郷土資料室に調査に赴き、畜産関係資料や写真資料の調査を行った。研究成果としては、『経済史研究』第15号（2011年）に「家畜預託慣行の史的考察—「家畜小作」概念の再検討—」として掲載した。また、日本農業史学会研究報告会（2012年3月28日・九州大学）にて「中国山地における預け牛関係にみる信頼・保険・金融—牛生産地域におけるインフォーマルな社会制度—」と題して個別報告を行った。

（文責・板垣貴志）

平成23年度科学研究費補助金・基盤研究 (C) 河島真「戦後保守思想の形成に関する史的研究—国家主義・皇国主義との関係を中心に—」

この研究課題では、兵庫県立姫路師範学校校長、兵庫県立第一神戸高等女学校校長などを努めた苦瓜恵三郎が書き残した回顧録、日記、及び校友会誌等に掲載された文章を収集・分析し、戦前在野の国家主義・皇国主義思想が、戦後の保守思想にどのようなつながっていくのかを検討することが課題となっている。

今年度は、苦瓜が山口県師範学校校長在職当時の史料収集、東京経済大学准教授戸邊秀明氏を招いた大規模研究会の開催、収集資料の筆耕と分析、日常的な研究会等を通して論文執筆準備を行い、最終年度となる来年度のまとめに向けての体制構築に努めた。（文責・河島真）